寄付のご案内

子ども・若者の一歩を支えるためにご寄付・ご支援をお願いいたします。

1 申し込みフォームで寄付をする（銀行振込） >>>>>>>>>>

右記のフォームから申し込みをお願いします。
振込先口座をメールでご案内いたします。

2 Webサイトから寄付をする（銀行振込・クレジットカード） >>>>

右記のサイトから寄付を受け付けています。

大阪マラソン

大阪マラソン2026チャリティパートナーとして寄附先団体に
選出されました。応援をよろしくお願いいたします。



今年度寄付を活用して実現した取り組み

不登校、生活困窮世帯の子どもたちが安心して通える居場所づくりを行いました。

居場所の運営

子どもたちが「ただいま」と帰ってきて、子どもらしく過ごせる居場所を専門職と大学生のボランティアで運営しました。

子どもたちと出会うための場づくり

子どもが気軽に立ち寄れる「駄菓子屋」を運営し、孤立した子どもと出会える場、地域のさまざまな人が立ち寄り、子どもたちを支えることができる場を作っています。

食事の提供

手作り夕食を週３日提供しました。次第に子どもたちが食べるごはんの量が増えたり、「いっしょにごはんを食べたい」と夕食を食べる子どもが増えたりしました。

学びと体験の機会づくり

ギターを弾いたりクッキーを作るなど、興味を持ったこと、自分のやりたいことを調べたり、挑戦しました。キャンプやお祭りなど見る、聞く、さわる、感じるなど五感を通して体験し、仲間と支え合う機会を提供しました。

保護者の支援

保護者の方々と一緒に子どものことを考え、学校、行政、関係機関とチームをつくり、連携して支援に繋ぎました。

み・らいず２は「認定NPO法人」の取得を目指しています

「認定NPO法人」とは、公益性が高く、一定の基準を満たしたNPO法人に与えられる認定です。
この認定を取得することで、活動が社会より信頼され、より多くの賛同者や支援者を集めやすくなります。また、寄付者の皆様は
税制優遇措置（寄付金控除）を受けることができ、より支援しやすくなります。
認定NPO法人を取得する要件の一つである、一口3,000円の寄付を年間で100人以上から集めることを目指しています。
不登校や引きこもり、障がい、生活困窮など、さまざまな背景を持つ子どもたちに対して、
継続的で多様な支援をこれから先も届けていくために、お力添えをお願いいたします。

み・らいず ME-RISE 2

NPO法人み・らいず２
〒559-0015 大阪市住之江区南加賀屋4-4-19

TEL：050-5840-3113（法人本部）
WEB：https://me-rise.com

み・らいず２は、「だれもが自分らしく地域で暮らすことができる社会」を目指して障がいのある人、発達障がいや不登校の子ども、高校生、ニート・引きこもりの若者など、支援が必要な方々に対する事業を行なっている団体です。大学生がボランティアとして約150名活動しています。

未来の声なき声に耳をかたむけ続ける

ANNUAL REPORT 2024

NPO法人み・らいず２　2024年度活動報告書

み・らいず ME-RISE 2

「だれもが、自分らしく地域で暮らせる社会」が当たり前な未来をめざして

未来の声なき声に耳をかたむけ続ける

私たちがしてきたこと、この先も挑み続けることは、
時代の先を行く福祉サービスの創造でも
単なる事業の運営でもありません。

出会う人々すべてと全力で向き合い、
話を聞き、言葉にならない思いを想像しながら
相手の幸せを一心に願う、その積み重ね。
たとえ、仕組みや制度の壁があったとしても
それでも何かできるはず、もっと他にできることはないか、
と立ち止まらずに考え続けるのが基本です。

その時代、時代の地域の課題や一人ひとりが抱える困りごとを見つめて、
必要な支援を届け、なければ、つくり続ける。

み・らいず2が目指すのは、
「だれもが、自分らしく地域で暮らせる社会」が
どんな人にとっても当たり前の未来です。

日々に大切な、6つの支援



私たちの考える、人生を豊かにする6つの支援

み・らいず2では、人と人とが地域社会で一緒に暮らしていくために必要な支援を、「遊ぶ」「暮らす」「育む」「学ぶ」「働く」「描く」という6つの視点からとらえて活動を行っています。

未就学期にはそれぞれの子どもの育ちを、保護者と一緒に受け止めながら、豊かな育ちの基礎を支えます。
児童期には「10歳」をポイントに置きながら、子どもの自我の芽生えや、「自分でやりたい、できる、できた！」等の意欲と行動を学びとる力をつけ、人と遊ぶことや自分の好きな遊びを楽しむ力を支えます。
思春期には「自分」を家族と切り離して考え始めたり、様々な葛藤と向き合い、少しずつ将来のことや自分の「暮らし」について考えはじめることを支えます。
高校卒業後は、働くことで社会を構成する1人の若者となり、誰かを支える立場になっていくための学びと経験を支え、働きながら自分らしく暮らす姿を一緒に描きつつ支えます。

2024年度も、それぞれの事業でみんながそれぞれの一歩をふみだすことができました。1年1年、今しかない時間を大切にしていきたいと思います。

アニュアルレポート2024発刊にあたり

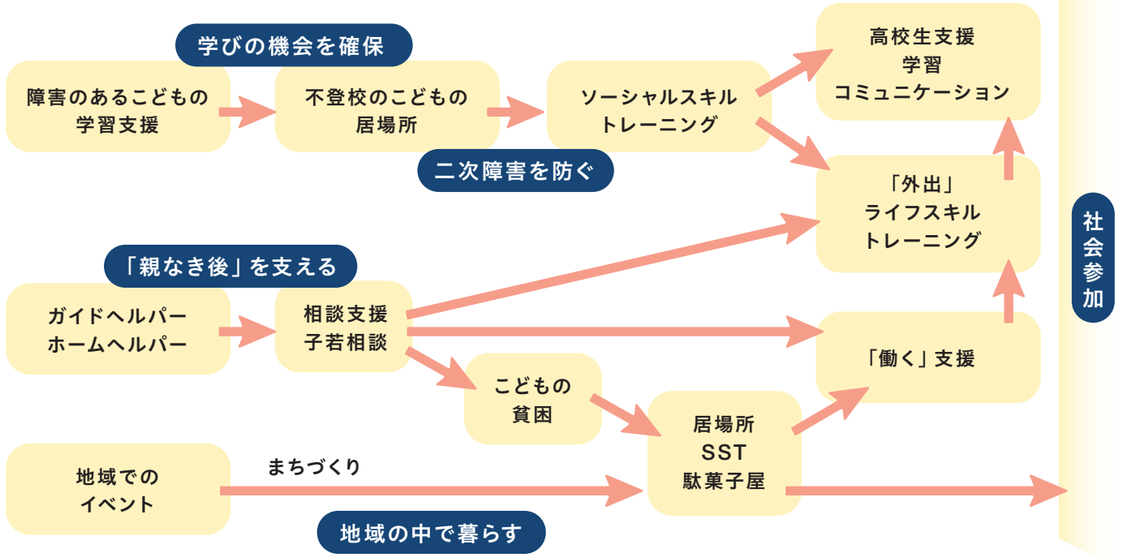


「だれもが自分らしく地域で暮らせる社会」を目指し、み・らいず2は2024年度もみなさまと共に歩んでまいりました。
子どもたちの「学びたい」を大切にするため、2024年春に個別の学びに特化した「スタディ事業部」を新たに立ち上げました。また、未就学児への支援の充実、高校生を対象とした学びの提供、ブランクのある若者の就職に向けた支援など、子どもや若者が未来へ羽ばたけるように、新たなサポートも始まりました。
これからも、子どもや若者の可能性を信じ、地域社会と一緒に育む挑戦を続けます。みなさまの変わらぬご支援を、心よりお願い申し上げます。

代表理事　河内 崇典

み・らいず2の活動の変遷

「必要な人に必要な支援をつくり続ける」をモットーに24年。
気づいた課題に対して必要な事業を始め、必要に合わせて変える。
そして福祉にかかわる人を増やしながら取り組みを続けています。



2024年度のTOPICS ～こどもの頃から必要な支援がある社会に～

ヘルプ事業部　**障害のある人が地域で暮らし、自分の意志で出かけることができる**
・ガイドヘルパー講座では、今年度は119名、通算2454名の学生が修了しました。
・beみ・らいずの活動で、「外出できる力の重要性」が少しずつ広まってきました。

サポート事業部　**他者や自分自身への安心や基本的信頼を感じ、少し先を描くことができる**
・駄菓子屋から支援につながってきています。居場所は財源等を変えて継続できました。
・堺市ユースサポートセンターでもヤングケアラーのための居場所がスタートしました。

スクール事業部　**学齢期にこどもたちが一緒に過ごし学べるよう、ソーシャルスキルを学ぶ**
・たかつき実践クラスでは、こどもたちが1年かけて企画し、まちのお祭りに出店しました。
・より高校生らしい活動ができるよう、デイサービスではない新たなクラスを創りました。

ワークス事業部　**学校卒業後に働く力をつけ、自分に合った仕事を見つける**
・3年制スタイルになって初めての卒業生が、企業に就職していきました。
・サポステ等から次のステップとなる場所、「み・らいずワークス三国ケ丘」をスタートしました。

NEW! スタディ事業部　**それぞれが将来を描き実現できるよう「学び」をサポートする**
スクール事業部から、「学び」に特化した「ラーンメイト」と、
自学自習塾「ネクストスクール」とが「スタディ事業部」としてスタートしました。







つながる成長ストーリー　必要なタイミングで必要な支援を届ける

こどもは誰でも特性や環境の違いによって、成長や変化のペースが違います。
子育ての中で保護者が「どうしよう？」と感じた時や、環境や周りの人間関係が要因で学校に行けなくなった時など、
こども自身がサポートを必要としているタイミングに必要な支援を届けることによって、
二次障害やさらに困難な状況に陥るのを防ぎたいと考えています。
み・らいず2は本人の歩みに寄り添いながら、成長ストーリーに沿った事業を準備し、
今後の人生に必要な経験を得て、それぞれの未来につなげる機会を届けています。



身につく力	サポート 事業部	スクール 事業部	スタディ 事業部	ヘルプ 事業部	ワークス 事業部
	児童期 ～ 青年期	未就学児 ～ 高校生	小学生 ～ 高校生	【beみ・らいず】小学校高学年 ～ 中学生 【と・らいず】10代 ～ 50代	高校卒業 ～ 20代
	自分について考え、未来を描く 自分で決めるため、相談できる場	ソーシャルスキルを知り 人とかかわる楽しさを知る	個性に合わせて 「できる喜び」「わかる楽しさ」を知る	自分で社会に参加する力 自分らしく余暇を楽しむ力	自分らしい「働く」と 「生きる」を見つける

2024年度の活動実績



こどもの居場所事業

大阪市住之江区では、「ひとり親家庭等のこどもの居場所」を大阪府の助成金や制度、大阪市こどもの見守り強化事業等を活用して週4日開催してきました。また「大阪市不登校児童生徒通所事業」は2004年から継続して受託しています。堺市では「堺市学習と居場所支援事業」等を受託して居場所を実施しています。どの事業でも、こどもの話をきくことを活動の中心に据えています。地域の児童福祉関連の会議や地域のイベントにも参画しています。

相談事業

障害児者の相談支援事業のほか、委託による子ども・若者総合相談やサポステ事業を含め、ひきこもり、ニート、不登校、就職困難、その他若者やご家族の相談など、多様な相談を多様な形で受けています。本人の話をきき、本人がもつ力に着目し、未来を描くことができるよう伴走します。



こどもたちが「気持ちの伝えかた」や「自分で決める力」等を身につけ、学校生活や家族との時間がより豊かなものになることを目指してサポートしています。特に2024年は、「小学校から中学校への環境変化」に合わせたプログラム開発に取り組みました。

み・らいずスクールなかもず

なかもずでは、保育士や教員、そして学生サポーターなど、スタッフの体制を強化するとともに、未就学児のニーズに応えるため、新たに複合商業施設「フレスポしんかな」の中に児童発達支援事業所を2025年春にオープンいたしました。

み・らいずスクールたかつき/たかつき2

たかつきは利用希望者が多く、教室を2か所にしたことでより多くの方に支援を届けることができました。長く積み重ねてきた「実践クラス」では、学んだことを活かして地域のお祭りに出店しました。



ラーンメイト

なかもず教室、たかつき教室、すみのえ教室、そしてFCとしてNPO法人ブレーンヒューマニティーが運営するにしのみや教室の4教室で、様々な学びづらさを感じているこどもたちが学んでいます。心理などを学ぶ大学生講師と、発達の特性に応じた学び方、教材づくりについて議論を重ねています。

ネクストスクール

経済的な理由により個別塾を利用しにくいこどもたちに、大阪市塾代助成をつかって、ネクストスクールが独自で開発した教材を使って自学自習ができる塾です。安立商店街の皆さんと一緒に「安立市」にも参加。地域の中で安心して勉強ができる場所となっています。

み・らいず高等学院

中学校で不登校などの状態にあったこどもたちの、通信制高校在籍中の学校生活のサポートや、その後社会に出ていくための伴走を行う「通信制高校サポート校」をスタートしました。



beみ・らいず

外出する力をつける放課後等デイサービス「beみ・らいず」も3年目を迎えました。自立に向けてこどもたちに必要なこととして、相談員や保護者の方々から問い合わせをいただくことも増えてきています。堺東商店街の皆さんにも大変お世話になっており、ハロウィンもすっかり恒例になりました！座学と実践を組み合わせた各プログラムも、2年目や3年目のお子さんは確実に力をつけ、「自分で買い物に行けた」「ひとりで学校へ通うようになった」「自分で進路を決めた」等の嬉しい変化が出てきています。

ヘルプセンター　と・らいず

み・らいず2の出発点のガイドヘルパー・ホームヘルパー派遣の事業です。障害のある人にとって、ヘルパーは日常生活に欠かせません。晴れの日も雨の日も、スタッフと学生ヘルパーが奔走しながら、障害のある人の生活をサポートし、一緒に外出を楽しむことで「共に暮らす」を日々体感しています。



み・らいずワークス基礎クラス

就職予備校1年目、働く準備として社会生活で必要な基礎を学び、働くことへの関心意欲をのばすクラスです。同世代と、グループ活動から学んだり、クラブ活動や放課後を楽しんだりするだけでなく、イベント運営の裏方や、企業見学、法人内実習と働くことを視野に入れた活動もあり、充実した1年を経て、12名が実践クラスへとすすみました。

み・らいずワークス実践・就活クラス

就職予備校2年目の実践クラスでは、先輩としてオープンキャンパスや文化祭などをやり遂げたのち、企業実習に取り組みました。3年制になってから初の就活クラス生は、ナビゲーションブック作成、企業研究、面接準備などに取り組み、6名が企業への就職を果たしました。

み・らいずワークス三国ケ丘

2024年4月には、ひきこもりや生きづらさを感じていた若者がこれからの進路を決めていくための「み・らいずワークス三国ケ丘」を新たに開所しました。

支援実績

サポート 事業部

- み・らいずパーク　実人数29名　のべ1098名
- み・らいずプレイス　実人数21名　のべ1220名
- サテライト住之江　実人数12名　のべ192名
- 堺市ユースサポートセンター　実人数1047名　のべ2759名
- 堺地域若者サポートステーション　実人数269名　のべ4133名
- 堺市学習と居場所支援事業　実人数140名　のべ1984名
- み・らいず相談支援センター　実人数98名　のべ468名

スクール 事業部

み・らいずスクールなかもず
- 児童発達支援　実人数 28名　のべ786回
- 放課後等デイサービス　実人数 60名　のべ2539回

み・らいずスクールたかつき
- 児童発達支援　実人数 14名　のべ403回
- 放課後等デイサービス　実人数 41名　のべ1838回

み・らいずスクールたかつき2
- 放課後等デイサービス　実人数 45名　のべ1846回

スタディ 事業部

- ラーンメイト　実人数 65名　のべ 2590名
- ネクストスクール　実人数 27名　のべ 627名

ヘルプ 事業部

- beみ・らいず　実人数 41名　のべ2061名
- ヘルプセンターと・らいず　実人数 162名　のべ1830名
  大学生ヘルパー数 80名

ワークス 事業部

- なんば基礎クラス（自立訓練）　実人数 22名　のべ3876名
- なんば実践・就活クラス（就労移行）　実人数 23名　のべ4664名
- 定着支援センター　実人数 17名　のべ138名
- 三国ケ丘校（自立訓練）　実人数 17名　のべ1797名

支援がつながり ひとりひとりのストーリーに

こども時代に得た経験や、
練習を積んで身についた力があり、
自分の力で歩き出すことができる

障がいや困難の有無にかかわらず
社会の一員として、
人と助け合って
役割をもって働いていく

困ったときに相談できる人や
楽しい時、穏やかな時間を
一緒にすごす人がいる



自分らしく
働き、暮らし、遊び、育み、
描くことができる日々へ
スタートを切ろう！

2020～2024年度までに
就職して社会に出た人　42名

就職後1年後の定着率　92.8%
（全国平均は77.9%）



みんなのあたりまえを
ひとりでも多くのこどもへ

障害があるために家族でキャンプや旅行に行けなかった、経済的な理由のために
家庭でクリスマスができなかった、お花見や釣りなど、知る機会もする機会もなかった等、
「みんなのあたりまえ」はあたりまえではない、ということに気づいてから、
み・らいず2では誰もが参加できるイベントをつくっています。
事業部を超えてともにつくることで、
参加した全員がそれぞれ豊かな気持ちをもって帰ることができる大切な機会です。

全員集合！み・らいず4大イベント

春は公園でお花見を、夏はキャンプにでかけ、秋は釣りにチャレンジ、冬にはクリスマス会を楽しむ。季節に応じて、
まちの中や自然の中で、こどもも大人もそれぞれにあった楽しみ方を大事にしています。


釣り


お花見


キャンプ


キャンプ


クリスマス会

地域のイベントもまちの人と一緒につくります！

地域のイベントに一緒に参加する機会は、こどもたちにもスタッフにとっても大切なチャレンジの場です。
そこで得られるさまざまな体験や気持ちは、社会に出るための大切な経験となっています。


すみのえ（ハートスタジアム）


たかつきNPO協働フェスタ


堺東（ハロウィンイベント）

まちの中で、どのこどもも楽しみながら育つことができるのが「あたりまえ」な社会へ

課題別に見た
2024年度の取り組み

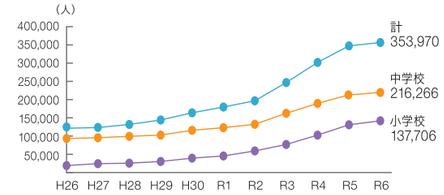
み・らいずは気づいた課題に対して支援をつくり続ける、をモットーに活動を行ってきました。
名前を「み・らいず２」にした理由は、二次障害など「もっと早く適切な支援があればよかった」という現象に対して、
必要な子どもの時期に支援を届ける「予防支援」の取り組みを強化するためです。
常に必要なことに気づき、支援をつくりつづけられるように、若手スタッフが事業の責任をもって運営し、
大学生と一緒に気づく目と心をもって活動することを大切にしています。
2024年度の活動を課題別に振り返ってみます。

～35万3970人の「不登校」のこどもたちも「学ぶ機会」を持てるように～

2024年度、不登校の小中学生は約35万人に達しました。不登校で最も深刻なのは、誰ともつながれず、「社会的に孤立」してしまうことです。実際、就労相談に来られる方の多くが不登校経験者であり、孤立が深まる前に「人との関係づくり」へ早期に関わることが、将来の自立に直結します。不登校の要因はさまざまですが、み・らいず2のすべての事業には、不登校状態のこどもたちが通っています。私たちは公的支援の受託やアウトリーチ、地域ネットワークづくりに加え、2024年度は塾やサポート校など、多様な切り口でこどもと出会う工夫を重ねています。特に重視しているのが、事業の入口づくりです。「学習」「遊び」「夕食」「イベント」「駄菓子」など、こどもの関心に応じた入口を用意しています。早期に出会うことができれば、スタッフや大学生が一人ひとりと向き合い、ともに遊ぶことを通して、安心できる居場所で自信や意欲を取り戻す支援を行っています。

2024年度
不登校児童生徒数
35万3,970人

不登校児童生徒数の推移



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省）

～「こどもの貧困」を社会の問題としてとらえる～

最新のこども白書によれば、ひとり親家庭の約44.5%が経済的困難にあります。貧困は、家で落ち着いて学ぶことや、季節の行事や友達との外遊びといった「子ども時代のあたりまえの体験」が不足する環境を生みます。こうした日常的な経験の欠如は、心の余裕を失わせ、人への信頼感や良好な関係を築く力を育む機会を損なわせます。その結果、社会に馴染めず将来的に孤立する大きな要因となります。私たちは、大阪マラソンのご寄付や助成金に支えられながら、温かい食事やだんらん、体験を通じてこどもが人生を自ら選び、豊かな価値観に出会えるよう支援を続けています。安心感を試す子どもの言動に心が消耗することもありますが、根気よく向き合う時間が必要な支援です。支援が届きにくい夜の時間に、親子それぞれの言葉にならない思いを想像しながら向き合い、彼らがいつか「そとに向かう勇気」をもてる日まで、真摯に伴走を続けています。

日本の子どもの貧困率 **11.5%**

約2人に1人が貧困状態

ひとり親家庭の貧困率 **44.5%**

こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援 の現状について（こども家庭庁）

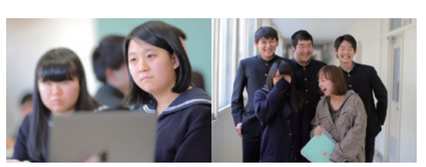
～社会みんなが福祉を自分事として知り、考える～

社会をつくる一人ひとりに福祉を知って考えてもらおうと、大阪市内の中学校で「福祉教育」の授業を行っています（大阪市委託事業）。その名も「フクシル～福祉を身近に感じる授業～」。福祉にかかわるボランティアなどで活躍する大学生からの実体験の話や「ひとりひとりの違いを知る授業」などを届けています。校則や指導が厳しい、友人関係も難しい等こどもの多様性が受け入れられにくい中学校時代だからこそ、この授業を通してこどもも大人も違う見方ができるようになることもあります。生徒からは「悲しい人や、不安な人を笑顔にしたいと思った。みんなの見え方や感じ方に個人差があるのは当たり前だということを実感した。」「しょうがいをもっていても、もっていなくても、困っている人がいたら助けられたらいいとおもった。」「大事だと思ったことは、困っている人がいたらすぐ行動できるようになる。また、自分のことも、他人のことも大好きになる。」などの感想をもらいました。引き続き、多くの学校に届けたいと思います。

福祉教育をうけた大阪市の中学校 20校
（のべ2085名）

プログラムの関心度

	実施前	実施後	
【学生】	32.1%	72.9%	上昇率 40.8%
【教員】	70%	93.3%	上昇率 23.3%



一般社団法人FACE to FUKUSHI 『みんなのリアル』

目の前の課題に気づき、取り組む ～2024年度～

障害福祉に関わる法律や制度が変わって以来、放課後等デイサービスが増え、特別支援学校、支援学級に在籍するこどもも増え、
さまざまなこどもたちが共に学ぶ、共に過ごす場の在り方は大きく変わりました。
コロナ禍を経て、学校に行かねばならないという価値観の変化もありました。
学校に行かなくても通信制で高卒資格は取りやすくなりましたが、社会に戻れないまま年を重ねている若者が大勢います。
働き方や仕事の内容もテクノロジーの変化とともに変わってきています。

一方で企業の障害者雇用率の未達成などの状況は変わらずあり、こどもや障害者の虐待件数も増え続けています。
時代や状況は変化し、社会の課題や個々の困りごと、必要なことも変化してきています。
だからこそ私たちは新しい課題に対して、単一のアプローチだけではなく
チーム間、事業部間で議論を重ねてチャレンジを続けています。

やってきた事業	議論してきたこと	解決へのチャレンジ	新規事業
み・らいずスクール **み・らいずスクール** 学校で他のこどもと すごす力をつけるための ソーシャルスキルトレーニング	●支援が不要になる「卒業」を目指すには？ → 就学前から支援を受けたこどもや保護者の変化が大きい！ → 学校へ上がる前にこどもの理解や向き合い方がわかると、保護者にもこどもにもゆとりがでる	未就学の年代から出会って 支援を届けていこう 未就学児の保護者と子どもの ためだけの場をつくろう	児童発達支援 **み・らいずスクール しんかなおか** 
	●思春期世代の支援をもっと豊かにするには？ → 中学生はまだ変化や揺らぎが大きいので療育があった方がよいか → 高校生は福祉の枠を出てもいいのではないか、必要なことだけサポートできれば	高校生に福祉制度の療育ではない 学びの場をつくろう 学力ではなく人間関係に着目した 「塾」をつくろう	高校生向け **みらいず コミュニケーションスクール** 
LEARN MATE ラーンメイト **ラーンメイト** 学びづらさがある こどものための個別塾	●経済的な状況によっては事業を使えないが、費用を下げるだけでは事業が成り立たない → 個別塾じゃなくても個に合わせて学べる方法はないか？ → 困窮世帯のこどもたちが使える制度はないか？	個に合わせた自学自習スタイルの 塾をつくろう 大阪市の塾代助成事業を活用 しよう	タブレット型自学自習塾 **ネクストスクール すみのえ校** 
	●「高卒資格」をとっておかないと不安、という気持ちで通信制高校を選んだその先のサポートが必要ではないか → 授業の選択やレポートなど通信制の方が自分でやらないといけないことが多い → 通信制で学校にいけていないまま中退や卒業してしまったあとをどうつなぐか	通信制の生徒たちをサポート できる事業をつくろう こどもや保護者に使いやすい 制度を活用しよう	通信制高校サポート校 **み・らいず高等学院** 
就職予備校 み・らいずワークス **就職予備校　み・らいずワークス** 学校卒業後に働く力をつける	●現状、毎日通うスクール形式 高卒すぐの方が中心なため、それ以外の方は利用しづらい ●大学や専門学校に進学した方で進路未決定だった方も使いやすい支援が必要	新卒じゃなくても、 卒業後ブランクがあっても 通える事業をつくろう 毎日でなくても週3日～でOK 自分のペースで通える事業を つくろう	自立訓練（生活訓練） **み・らいずワークス 三国ケ丘**  
子ども・若者総合相談 地域若者サポートステーション ひきこもり・不登校・ニートなどの状態にある 子ども・若者やその家族、関係者の支援を行う	●相談機関に長期間滞留してしまう状況をどう変えていけるか ●相談機関のサポート後、気持ちの波に合わせながら「通える場」が必要 ●「働くこと」や「障害福祉」という言葉にハードルを感じる方にどんな支援があればいいか	安心できて定期的に通える そして体験できる場所をつくろう 福祉制度事業でも本人にとって 受け入れやすい事業をつくろう	

大学生とともに
社会課題解決に取り組む

ガイドヘルパー養成講座



2003年から開催しているガイドヘルパー講座は、大学生が障害のある人と出会い福祉を知る大切な機会です。2024年は重点課題として法人をあげて改善に取り組み、ベテランから若手までスタッフがチームを組んで、講義・運営のブラッシュアップを行いました。グランキューブで開催したり、利用者さんの保護者の方にゲストで話していただいたり、先輩学生ヘルパーにも話してもらったり。1年間に5回開催し、申込者は定員を超える158名、修了者は119名でした。通算の修了者数は2454名となりました！



【参加者の声】

講座で、障がいを持つ方の困り事を体験したことがとても印象に残っています。自分の世界では体験したことがない感覚ばかりで、こんなに大変なのか…と気づき、衝撃を受けたことを今でも覚えています。ガイドヘルパーとして実際に障がいを持つ方と関わる中で、障がいやその人自身のことを"知ること"がとても大切だと気がつきました。知ることによって、より良い関わりができるようになり、利用者さんが楽しんでいる姿を見るとすごくやりがいを感じます。（大学3回生）

ここからはじめるボランティア 通称「ここボラ」



「一歩踏み出したい」でも「しっかりとしたボランティアはハードルが高い…」という大学生のために、気軽に参加できる機会をつくろうと始まった「ここからはじめるボランティア」事業。仲間と一緒に旅を楽しみながら、地域の人たちとの温かな交流を通じて、自然と誰かの役に立てる経験ができます。み・らいずの各スタッフが、自分にゆかりのある地域でボランティア活動を開拓しアテンドします。3泊4日活動を共にし、自分のこと、地域のこと、福祉のことなどゆっくり語り合える場です。



【参加者の声】

私は、せっかくの長期休みをダラダラ過ごしたくない！ボランティアを始めたい！という気持ちから参加しました。1人での参加で不安もあったけど、活動を通して自然とみんなと仲良くなることができ、また、ボランティアには固いイメージがあったけど、想像以上に楽しく、学びが多いことに気づけたことが印象的です。初日のサイクリングでみんな疲れきって交流会で元気がなかったのも良い思い出で、あっという間の3泊4日でした！！勢いで応募した自分を褒めたいくらい、参加して良かったです！　（大学3回生）

ソーシャルカレッジ



2020年コロナ禍により大学に通えなくなった大学生がつながり学びあえる場として始まった事業です。大学生が運営を担っています。大学生が社会で気になっていることを共有しあい、様々な現場に足を運び体験を通して、現場のリアルな声を聞きながら、課題の本質は何なのか、自分自身がそれが気になる理由は何なのかなど理解を深めながら課題解決への取り組みを行う場です。自分事として社会課題に関心を持つ学生を増やすことで、社会課題が放置されない社会をつくっていきたいと考えています。2024年度も112名の大学生がさまざまなプロジェクトに参画しました！



【参加者の声】

3回生で「新しいことを始めたい」と思っていた時、友人にソーシャルプロジェクトを紹介されてこどもの居場所づくりの活動を始めました。「どこまで話に踏み込んでいいのか」「どう声をかければいいのか」など、思っていたより難しいことが多く、今まで以上に"コミュニケーションってなんだろう？"と考えるようになりました。一方で、こどもたちとのゲームや何気ない関わりの中で少しずつ距離が縮まり、「あ、今すごく楽しい！」と感じる瞬間もたくさんあって、やりがいを強く感じました。4回生になり今度は自分が誰かの挑戦を応援する立場になりたいと思い運営側に。ソーシャルリクルートにも参加して、「ここで働きたい！」と思える就職先に出会えました。卒業後も福祉に関わり続け、生きづらさを抱えている方に少しでも寄り添えるよう、これからも頑張っていきたいです。　（大学4回生）

利用者の声

み・らいずパーク（中学校1年生）

みらいずに来て自分の気持ちを言えるようになりました。僕は今まであまり自分の気持ちを人へ伝えないようにしていました。でもみらいずのスタッフは何かある度に気持ちの確認をするため、言えるようになりました。信頼できるのは友人ですが、気持ちを言えるようになったことはよかったと思います。



み・らいずワークス卒業生（21歳）

働きだして約1年、コンサルティング会社の社内清掃の仕事をしています。選んだ理由は、区役所の清掃の実習を3か月続けていき、確認や報告・連絡・相談ができたからです。「分からないことを"分かりません"と言えないと、社会に出た時に困るよ」と実習先の人に言われ、素直に言えば教えてもらえることもあるのか！と思いました。オフィス街でスーツを着るという憧れもかなえました。今は、仕事の時間を延ばしていくことが目標です。



家族・地域の声

beみ・らいず＆ガイドヘルパーを利用（中学2年生）保護者

利用するまでは、将来の漠然とした不安が常に頭を駆け巡っていました。緊張が強い子で、1人でバスや電車に乗ったり、スーパーにおつかいに行く日が来るなど、知的障害と診断された10年前には一切想像していませんでした。毎週課題にチャレンジする姿や、新しいヘルパーさんとでも外出していく様子を見て、親の私達が心配し過ぎていたと気付きました。「わかる、できる、知ってる」の積み重ねは娘の自信になったようで、少し難しそうなことも「やってみる」方を選ぶことが増えたように思います。きっと成人後も活き活きと暮らしていけるのではと、希望を持てるようになりました。



み・らいずスクール（年中）保護者

年少から利用しています。当初は落ち着きがなく切り替えも難しかったのですが、3～4歳で言葉が増え、かんしゃくも大きく減りました。家でも、療育で行っている声かけの仕方をまねて伝えるようにしています。事前の声かけがあると時間を意識して切り替えがしやすかったり、具体的な質問をすると答えやすかったり、ということも実感してきました。本人に理由を伝えると納得できる場面も増えました。保育園でも一斉指示が聞けるようになり、困ったときは自分で先生に質問し、友達とのトラブルも減っています。療育を受けた方がいいのか悩んでいましたが、早期に通ったことで安心につながり、小学校に向けた力もついてきていると感じます。



ワークス卒業生が働く企業の方

向き不向きがあるのは当たり前なので、出来ることを伸ばし、困難にぶつかった時はフォローできる環境作りが大事だと思います。み・らいずから来る方は、黙々と取り組み集中力を維持できたり、自分から積極的に「何をしたらいいですか」と尋ねたり、何度もメモを見返して覚えようとしたりと、自分で考え、行動する力があります。周りがその人の事を理解し、時には厳しく緩急をつけながら共に成長していくことで、自信につなげていってくれています。
（ダイサン株式会社様）



同じ利用者さんに関わる事業所の方

ご利用者への向き合い方、また個々に応じた障がい福祉サービスの利用・応用の考え方について学び共感させていただいております。日々過ごす中でまだまだハード面、ソフト面共にバリアフリー化が進んでいない現実を目の当たりにすることが多くあります。ご利用者の目線で事柄をとらえ感じ取った私たちに何ができるのか？小さな力を合わせ協力と信頼のもと大きな力となる様、これまでもこれからも、ご利用者の「生きる力」に寄り添いながら、み・らいず職員の皆さまとより良い支援を積みあげてまいりたいと思っております。今後も地域福祉をともに進めるパートナーとして高め合っていける関係をお願いいたします。　（社会福祉法人あさか会グループホーム事業
村上めぐみ様）

